



基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ

看護実践のための援助技術



ムービータイトル	サムネイル	サマリー	教科書該当箇所
ベッドメイキング (8分24秒)		ベッドメイキングを行う場合には、ボディメカニクスの原則を活用し、看護師に負担がかからないように行う。	1章 快適な環境をつくる技術 ■2 環境を整える技術 3 病床を整える援助
シーツ交換 (4分29秒)		シーツを交換する際には、二人一組になり、ベッドを患者や看護師の負担にならない高さ調整し、しわにならないよう手早く交換することが大切である。	1章 快適な環境をつくる技術 ■2 環境を整える技術 3 病床を整える援助
ベッド周囲と廊下における危険な状況 (5分25秒)		患者のベッド周辺・廊下の環境整備を促すアニメーション。危険な状況を描いたイラストから問題提起し、解説とともに、きちんと整備した環境を提示する。危険予知トレーニングに使用できる。	3章 患者の安全・医療従事者の安全を守る技術 ■1 医療安全の意義と確保 2 安全を脅かす要因（安全に関するアセスメント項目）
トルクを利用した体位変換 (1分51秒)		トルク（物体を回転させる力）の原理を解説した上で、実際に体位変換時の患者の体勢による看護師の負担の違いを比較する。	3章 患者の安全・医療従事者の安全を守る技術 ■3 医療従事者の安全 1 ボディメカニクス
作用・反作用の利用＋摩擦力の軽減による患者の移動 (2分9秒)		作用・反作用を利用した患者の引き寄せ方、摩擦力を軽減する看護師の工夫や患者の体勢など、力学作用を用いて、臥床している患者を移動させる方法を紹介する。	3章 患者の安全・医療従事者の安全を守る技術 ■3 医療従事者の安全 1 ボディメカニクス
上方移動→水平移動→側臥位の体位変換 (3分39秒)		看護師の負担を軽減し、患者にも安楽な体位変換を行うため、看護師の身体の使い方や患者の体勢など、一連の体位変換におけるボディメカニクスのポイントを解説する。	3章 患者の安全・医療従事者の安全を守る技術 ■3 医療従事者の安全 1 ボディメカニクス
感染症 ～冷静な対応のために (12分50秒)		医療従事者である限り、感染症に罹患するリスクは避けて通れない。感染症法における感染症の分類と対策を確認するとともに、医療従事者が感染症とどう向き合うべきか考えるべく、西アフリカのリベリアでエボラ出血熱患者の対応にあたった感染症の専門家、古宮伸洋医師（日本赤十字社和歌山医療センター）に話を聞いた。	4章 感染予防を推進する技術 ■2 感染症に関する法律

基礎看護技術Ⅱ 看護実践のための援助技術

ムービータイトル	サムネイル	サマリー	教科書該当箇所
<p>手洗い (2分19秒)</p> <p>🔊</p>		石けんを使用した手洗い方法を解説する。洗い残しのないよう十分に両手をこすり合わせる事が大切である。	<p>4章 感染予防を推進する技術</p> <p>■ 5 感染症を予防するための技術</p> <p>1 手指衛生</p>
<p>アルコール製剤による 手指消毒 (1分11秒)</p> <p>🔊</p>		アルコール製剤による手指消毒を解説する。消毒剤が乾燥するまで、まんべんなく擦り込むことが大切である。	<p>4章 感染予防を推進する技術</p> <p>■ 5 感染症を予防するための技術</p> <p>1 手指衛生</p>
<p>無菌室の一例 (2分30秒)</p> <p>🔊</p>		無菌室の意義、室内を無菌状態に保つための工夫、構造、利用時の注意点などを紹介する。	<p>4章 感染予防を推進する技術</p> <p>■ 5 感染症を予防するための技術</p> <p>3 無菌操作</p>
<p>滅菌手袋の着け方・外 し方 (2分48秒)</p> <p>🔊</p>		手袋の外側に触れないよう注意しながら装着し、両手を合わせて指先をフィットさせる。手袋を外す場合も外側に触れないようにして脱ぐ。	<p>4章 感染予防を推進する技術</p> <p>■ 5 感染症を予防するための技術</p> <p>3 無菌操作</p>
<p>ガウンテクニック (1分51秒)</p> <p>🔊</p>		手袋と同様、着脱の際には、ガウンの外側に直接触れないように注意することが大切である。	<p>4章 感染予防を推進する技術</p> <p>■ 5 感染症を予防するための技術</p> <p>3 無菌操作</p>
<p>滅菌ガーゼの渡し方 (1分12秒)</p> <p>🔊</p>		ガーゼに直接触れないように、相手が受けとりやすいようにしてガーゼを渡すことが大切である。	<p>4章 感染予防を推進する技術</p> <p>■ 5 感染症を予防するための技術</p> <p>4 滅菌物の取り扱い</p>
<p>消化器系 (11秒)</p> <p>🔊</p>		回転映像	<p>5章 食事・栄養摂取を促す技術</p> <p>■ 2 食事に関する生理学的メカニズム</p> <p>2 消化・吸収</p>

基礎看護技術Ⅱ 看護実践のための援助技術

ムービータイトル	サムネイル	サマリー	教科書該当箇所
呼吸と嚥下 (48 秒) 		口腔から咽頭までの間は、呼吸のためのはたらきと摂食・嚥下のためのはたらきの両方の機能を有している。呼吸と嚥下、それぞれの動きを理解しよう。	5 章 食事・栄養摂取を促す技術 ■ 2 食事に関する生理学的メカニズム 3 各臓器における消化・吸収
食事の援助前のアセスメント (4分 19 秒) 		食事の援助にあたり、情報収集を行い、患者の嗜好や食習慣に適した食事の提供、セルフケア能力向上のための食環境を考えていくアセスメントの流れを事例を通して解説する。看護者の思考過程(臨床判断能力)が学べる。	5 章 食事・栄養摂取を促す技術 ■ 5 食事・栄養に関する援助の実際 2 経口摂取の援助
食事の援助 (5分 24 秒) 		事例を通して、食事の準備や援助の注意点を解説する。介助下だけでなく、自身での食事が可能な患者、嚥下機能が低下した患者などへの具体的な援助方法も学べる。動画「食事の援助前のアセスメント」と併せて視聴すると、食事援助の一連の流れについて理解が深まる。	5 章 食事・栄養摂取を促す技術 ■ 5 食事・栄養に関する援助の実際 2 経口摂取の援助
経鼻経管栄養 (3分 57 秒) 		在宅における経管栄養法の一つ・経鼻経管栄養法の手順を紹介する。	5 章 食事・栄養摂取を促す技術 ■ 5 食事・栄養に関する援助の実際 3 経管栄養の援助
胃瘻 (4分 21 秒) 		在宅における胃瘻栄養法について、実際の在宅療養者の場面を紹介する。	5 章 食事・栄養摂取を促す技術 ■ 5 食事・栄養に関する援助の実際 3 経管栄養の援助
注入の手順 (4分 17 秒) 		在宅での中心静脈を介した輸液管理について、針を抜去すれば自由に歩行や入浴ができる皮下埋め込み式(ポート式)を、実際の在宅療養場面を交えて紹介する。	5 章 食事・栄養摂取を促す技術 ■ 5 食事・栄養に関する援助の実際 4 経静脈栄養法
ストーマ装具の交換 (3分 34 秒) 		ストーマとは手術によって体表面に造設された排泄口を指す。実際の在宅療養者の場面で、ストーマ装具の交換を紹介する。	6 章 排泄を促す技術 ■ 5 排尿・排便の援助 4 ストーマ造設者への援助

基礎看護技術Ⅱ 看護実践のための援助技術

ムービータイトル	サムネイル	サマリー	教科書該当箇所
膀胱留置カテーテルの管理 (4分40秒) 🔊		膀胱留置カテーテルは自然排尿が困難な場合などに使用される。膀胱留置カテーテル管理について、実際の在宅療養者の場面を交えて紹介する。	6章 排泄を促す技術 ■ 5 排尿・排便の援助 6 導尿
体位変換 (2分13秒) 🔊		体位変換を行う場合には、できる範囲のことは対象者に行ってもらい、てこの原理を利用して、余分な力を使わないで体位変換を行い、対象者にも負担にならないようにすることが大切である。	7章 活動・運動を支援する技術 ■ 5 活動・運動を支援する援助の実例 1 体位変換
仰臥位から直接端座位へ (2分59秒) 🔊		自力での起き上がりが困難な患者を仰臥位から直接端座位にしていく方法を紹介する。一つひとつの動作のポイントを解説し、スムーズな体位変換につなげる。	7章 活動・運動を支援する技術 ■ 5 活動・運動を支援する援助の実例 1 体位変換
起立・着座の介助 (1分24秒) 🔊		患者の立ち上がり動作を意識した上で、端座位から立ち上がる際、座る際の介助をスムーズに行うポイントを紹介する。	7章 活動・運動を支援する技術 ■ 5 活動・運動を支援する援助の実例 1 体位変換
自然な立ち上がり動作 (1分26秒) 🔊		立ち上がりの介助を行うにあたり、立つという動作の理解を促す。足の位置、重心の移動など普段意識しない一つひとつの動きまで解説する。	7章 活動・運動を支援する技術 ■ 5 活動・運動を支援する援助の実例 1 体位変換
関節可動域訓練 (ROM訓練) (6分35秒) 🔊		ROM訓練は、固縮した関節運動の改善や拘縮予防のために行われる。無理な運動をして脱臼や骨折を引き起こさないように注意することが大切である。	7章 活動・運動を支援する技術 ■ 5 活動・運動を支援する援助の実例 2 床上運動
移動・歩行前のアセスメント (5分46秒) 🔊		患者の移動・歩行前に行う情報収集、観察のポイントを示しながら、看護師がどうアセスメントし、介助を検討していくのかという思考過程（臨床判断能力）を解説する。	7章 活動・運動を支援する技術 ■ 5 活動・運動を支援する援助の実例 3 立位と歩行

基礎看護技術Ⅱ 看護実践のための援助技術

ムービータイトル	サムネイル	サマリー	教科書該当箇所
<p>好ましくない介助方法 (1分14秒)</p> <p>🔊</p>		<p>患者の歩行を介助する際、前方から手を引くように支えた場合、患者にどのような危険が生じるかを解説する。</p>	<p>7章 活動・運動を支援する技術</p> <p>■ 5 活動・運動を支援する援助の実際</p> <p>3 立位と歩行</p>
<p>車椅子への移動 (4分40秒)</p> <p>🔊</p>		<p>車椅子による移動は、座位になれるが歩行は困難な患者が対象となる。ベッドから車椅子への移動の方法を紹介する。</p>	<p>7章 活動・運動を支援する技術</p> <p>■ 5 活動・運動を支援する援助の実際</p> <p>4 移動・移送</p>
<p>立ち上がる際の足の位置 (1分40秒)</p> <p>🔊</p>		<p>足の位置が少し変わるだけで、患者が自然に立ち上がれなくなり、介助時の負担が増す。足を引きすぎた場合、出しすぎた場合の患者の立ち上がりにくさを解説し、看護者への注意を促す。</p>	<p>7章 活動・運動を支援する技術</p> <p>■ 5 活動・運動を支援する援助の実際</p> <p>4 移動・移送</p>
<p>車椅子での移送 (3分55秒)</p> <p>🔊</p>		<p>車椅子を看護者やその他の介護者が操作する場合の移動速度、傾斜が急な上り坂や下り坂、エレベーター使用時などの留意点を紹介する。</p>	<p>7章 活動・運動を支援する技術</p> <p>■ 5 活動・運動を支援する援助の実際</p> <p>4 移動・移送</p>
<p>足の爪のケア (1分49秒)</p> <p>🔊</p>		<p>足の爪をケアする場合には、爪と皮膚の境目に注意し、皮膚を切らないように注意する。仕上げに爪ヤスリを使って形を整える。</p>	<p>9章 身体の清潔を援助する技術</p> <p>■ 8 清潔の援助方法</p> <p>2 整容</p>
<p>口腔ケアの一例 (2分53秒)</p> <p>🔊</p>		<p>座位がとれない療養者に対する口腔ケアの必要物品、方法、注意点を紹介する。</p>	<p>9章 身体の清潔を援助する技術</p> <p>■ 8 清潔の援助方法</p> <p>3 口腔ケア</p>
<p>義歯のケア (3分51秒)</p> <p>🔊</p>		<p>高齢者に対する義歯のケアの手順および注意点を解説する。</p>	<p>9章 身体の清潔を援助する技術</p> <p>■ 8 清潔の援助方法</p> <p>3 口腔ケア</p>

基礎看護技術Ⅱ 看護実践のための援助技術

ムービータイトル	サムネイル	サマリー	教科書該当箇所
<p>入浴介助前のアセスメント (6分31秒)</p> <p>🔊</p>		<p>入浴介助にあたり、患者の何を観察しどんな情報を得るか、その情報からどうアセスメントし、介助の計画を立てていくかといった看護師の思考過程（臨床判断能力）を事例を通して解説する。</p>	<p>9章 身体の清潔を援助する技術 ■ 8 清潔の援助方法 4 入浴・シャワー浴の介助</p>
<p>手浴 (8分41秒)</p> <p>🔊</p>		<p>在宅における清潔保持の方法である部分浴（手浴・足浴）について、その方法や注意点を解説する。</p>	<p>9章 身体の清潔を援助する技術 ■ 8 清潔の援助方法 5 部分浴（手浴・足浴）</p>
<p>足浴 (3分6秒)</p> <p>🔊</p>		<p>足浴を行う際には、足の皮膚の状態などの観察も不可欠である。高齢者は内出血を起こしやすいので注意する。</p>	<p>9章 身体の清潔を援助する技術 ■ 8 清潔の援助方法 5 部分浴（手浴・足浴）</p>
<p>ケリーパッドを用いた洗髪 (6分1秒)</p> <p>🔊</p>		<p>ケリーパッドを用いた洗髪方法を解説する。</p>	<p>9章 身体の清潔を援助する技術 ■ 8 清潔の援助方法 6 洗髪</p>
<p>洗髪方法の一例 (5分)</p> <p>🔊</p>		<p>洗髪台・洗髪車の説明、ドライシャンプーでの洗髪方法を解説する。</p>	<p>9章 身体の清潔を援助する技術 ■ 8 清潔の援助方法 6 洗髪</p>
<p>各部位（顔面・上下肢・背部）の清拭 (5分38秒)</p> <p>🔊</p>		<p>顔面・上下肢・背部の清拭について解説する。</p>	<p>9章 身体の清潔を援助する技術 ■ 8 清潔の援助方法 7 全身清拭</p>
<p>呼吸と横隔膜 (15秒)</p> <p>🔊</p>		<p>横隔膜と肋間筋が同期して収縮すると、胸壁が広がって胸腔の前後径が増大し、横隔膜は下方に動いて胸腔が上下に広がるため、胸腔の容積が増す。安静時と吸気時の肺と横隔膜の動きに注目。</p>	<p>10章 呼吸を楽にする技術 ■ 2 呼吸の生理学的メカニズム 2 吸気と呼気のメカニズム</p>

基礎看護技術Ⅱ 看護実践のための援助技術

ムービータイトル	サムネイル	サマリー	教科書該当箇所
腹式呼吸 (2分59秒)		腹式呼吸の方法について解説する。	10章 呼吸を楽にする技術 ■ 5 呼吸を楽にする援助 1 効率的な呼吸方法
体位排痰法 (2分12秒)		痰のある肺区域を一番上にして重力を利用して痰を移動させる排痰体位を紹介する。	10章 呼吸を楽にする技術 ■ 5 呼吸を楽にする援助 2 痰を咯出させる方法
スクイーミング (3分27秒)		排痰部位の胸郭に対して行う呼吸圧迫法・スクイーミングを紹介する。	10章 呼吸を楽にする技術 ■ 5 呼吸を楽にする援助 2 痰を咯出させる方法
気管カニューレの交換 (4分13秒)		在宅療養における気管カニューレの交換の様子を、実際の療養者の場面で紹介する。	10章 呼吸を楽にする技術 ■ 5 呼吸を楽にする援助 4 吸引
酸素供給装置 (4分13秒)		在宅酸素療法 (home oxygen therapy : HOT) で使用される酸素供給装置を紹介する。携帯用ボンベの運び方についても紹介する。	10章 呼吸を楽にする技術 ■ 5 呼吸を楽にする援助 5 酸素療法
褥瘡の実際 (1分44秒)		在宅での褥瘡予防について、好発部位と予防的ケアを紹介する。	12章 皮膚・創傷を管理する技術 ■ 4 褥瘡の管理 3 褥瘡好発部位
褥瘡処置の手順 (2分27秒)		在宅療養の場面において、褥瘡処置の手順を紹介する。	12章 皮膚・創傷を管理する技術 ■ 4 褥瘡の管理 7 褥瘡発生時のケア

基礎看護技術Ⅱ 看護実践のための援助技術

ムービータイトル	サムネイル	サマリー	教科書該当箇所
<p>経口与薬 (4分44秒)</p> <p>🔊</p>		<p>経口与薬を実施する際の注意点とその方法について解説する。</p>	<p>13章 与薬・輸血を安全かつ正確に行う技術</p> <p>■4 与薬のための援助技術</p> <p>2 与薬法</p>
<p>静脈内注射 (3分57秒)</p> <p>🔊</p>		<p>静脈内注射を実施する際の注意点と手順・方法について解説する。</p>	<p>13章 与薬・輸血を安全かつ正確に行う技術</p> <p>■5 注射のための援助技術</p> <p>4 注射の実際</p>
<p>点滴静脈内注射 (6分16秒)</p> <p>🔊</p>		<p>点滴静脈内注射を実施する際の注意点と手順・方法について解説する。</p>	<p>13章 与薬・輸血を安全かつ正確に行う技術</p> <p>■5 注射のための援助技術</p> <p>4 注射の実際</p>
<p>静脈血採血（滅菌真空採血管使用）JCCLS標準採血法ガイドライン（GP4-A1）準拠 (2分39秒)</p> <p>🔊</p>		<p>滅菌真空採血管を使用した静脈血採血の必要物品、手順について解説する。 ※ JCCLS 標準採血法ガイドライン（GP4-A1）に対応しました。</p>	<p>14章 検査・治療を安全かつ正確に行う技術</p> <p>■3 検査の援助</p> <p>8 血液検査</p>
<p>心肺蘇生 (1分48秒)</p> <p>🔊</p>		<p>心肺蘇生（cardiopulmonary resuscitation: CPR）とは、心肺停止患者の呼吸・循環機能を維持する目的で胸骨圧迫および人工呼吸を行うことである。</p>	<p>15章 救急救命処置を行う技術</p> <p>■3 一次救命処置</p> <p>1 心肺蘇生</p>
<p>AEDの技術 (2分22秒)</p> <p>🔊</p>		<p>AED（automated external defibrillator: 自動体外式除動器）とは、コンピュータ作動によって自動的に心電図を解析して除細動が必要か否かを判断し、電気ショックを音声メッセージによって指示するものである。その方法を紹介する。</p>	<p>15章 救急救命処置を行う技術</p> <p>■3 一次救命処置</p> <p>2 除細動</p>